

プロフィール



大久保 光哉 Baritone : Okubo Mitsuya

慶應義塾大学法学部卒業。北海道銀行勤務を経て、東京藝術大学大学院博士課程および文化庁オペラ研修所第10期生修了。文化庁在外派遣研修員としてスウェーデンに留学。音楽博士。白糠町文化奨励賞受賞。二期会会員。札幌音楽家協議会会員。

新国立劇場では、こけら落とし公演《TAKERU 建》をはじめ、《黒船》《沈黙》《こうもり》《ラ・ボエーム》《修善寺物語》《ジャンニ・スキッキ》など多数の公演に出演している。また、二期会《有間皇子》《リゴレット》《ルル》、東京オペラプロデュース《修道院の結婚》《ロビンソン・クルーソー》、東京室内歌劇場《井筒の女》、二期会・読売交響楽団・日生劇場共催公演《リア》、横浜みなとみらいホール主催《竹取物語（沼尻竜典作曲）》、KAAT神奈川芸術劇場《カーリユー・リヴァー》などオペラ役者として話題作に多く出演している。また、東京フィルハーモニー管弦楽団《遙かなる響き》《ファウスト博士》《抒情交響曲》《アルファとオメガ》、東京交響楽団《カーチャ・カヴァノーヴァ》《死者の家》《裏切られた海》、読売交響楽団《椿姫》《ヴォイツェック》《パルトンとオーケストラのための般若心経》ほか、アンサンブル金沢、仙台フィル、札幌交響楽団など主要オーケストラと共演。ほかに、NHK【FMリサイタル】【名曲リサイタル】【BSプレミアム“クラシック倶楽部”】、読売テレビ【夜の音楽会】に出演。

我が国における北欧歌曲の第一人者として、日本フィルハーモニー管弦楽団とのシベリウス歌曲の演奏や、2夜にわたるオール・シベリウス歌曲のリサイタル、東京新聞主催《クッレルヴォ（シベリウス）》、レークサンド音楽祭（スウェーデン）でのスウェーデン歌曲の演奏、《火の起源（シベリウス）》など、北欧歌曲の普及にもつとめている。さらに、神奈川フィル合唱団音楽監督などの合唱指揮や《カヴァレリア・ルスティカーナ》《魔笛》などのオペラの演出、《滝廉太郎をめぐって～島崎藤村の回想》《宮澤賢治～その光と影》といった演奏会の企画・構成、校歌の作曲などマルチな活動を展開している。

現在、北海道教育大学岩見沢校教授として後進の指導にもあたっている。

大久保 咲恵子 Piano : Okubo Saeko

武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。

大学卒業後、数度にわたり渡欧し、ウィーン国立音楽大学ノエル・フローレス教授のもとで研鑽を積む。ウィーンのバーゼンドルファーザールにてコンサートにも出演など、現在、数多くの演奏会に出演し活躍中。音楽ライターとして、2000年にはスウェーデンを訪れ、ヤン・エイロン氏にスウェーデンのピアノ作品の演奏法と伴奏法を学び、『月刊ショパン』に「スウェーデン音楽紀行」を、また「21世紀へのピアノ教室」を連載執筆した。

2002年、自らの家庭を題材にした作品「小さな手」（田村徹作曲）の構成及び作詩を担当。2003年1月、草月ホールにおいて、大久保光哉と大久保舞咲（当時1歳6ヶ月）と共演し初演。その業績に対し、「日本の音楽展・ズイホー賞奨励賞」を受賞した。



久東 寿子 Koto : Kuto Toshiko

二十五絃箏の演奏を主に古典から現代曲まで幅広く演奏活動を展開。NHK邦楽技能者育成会修了。NHK邦楽オーディション合格。二十五絃箏リサイタル、CD制作参加、NHK-FM放送出演、各地での学校公演、また、国際交流基金・文化庁派遣などにより、米国・韓国・豪州・UAE・オマーン・カタール・カザフスタンでの演奏など国内外にて多くの演奏活動をおこなう。

三絃を初代野坂操壽師、箏・二十五絃箏を二代野坂操壽師（文化功労者）に師事。生田流箏曲松の実會師範。日本音楽集団団員。我孫子市三曲協会会長。日本三曲協会、生田流協会会員。「和の音楽教室ことね」主宰。



道新プレイガイド
オンラインストア



平和ステージ・オフィス
予約ページ

Kitaraへの アクセス

地下鉄	南北線「中島公園駅」3番出口から 徒歩約7分
	南北線「幌平橋駅」1番出口から 徒歩約7分
市電	「中島公園通」下車 徒歩約4分
バス	北海道中央バス、JR北海道バス「中島公園入口」
	JR北海道バス「中島公園駅前」「幌平橋駅前」 北海道中央バス「幌平橋」

Kitara ホームページ
交通案内

